

科目名		授業形態	担当教員名	
小児歯科学		講義	佐々木 有美	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 (2 単位)		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
歯科衛生士業務を行うために必要な小児の身体的・心理的特徴と小児の歯科治療の理解を目的とする。				
授業の到達目標				
1. 小児の正常な身体的成長発育とその障害を説明できる。 2. 成人歯科と小児歯科の違いを説明できる。 3. 歯列および咬合の正常発育とその障害を説明できる。 4. 乳歯と幼若永久歯の解剖学特徴を説明できる。 5. 小児う蝕の特徴, う蝕予防および進行抑制法を説明できる。 6. 乳歯と幼若永久歯の歯冠修復法、歯内療法を説明できる。 7. 小児の口腔外科疾患と外傷の種類と処置法を説明できる。 8. 咬合誘導の概念、保険装置の種類、適応症を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	小児歯科学概論 (p.2-5) : [小児歯科学とは] 小児の心身の発育 (p.6-11) : [発育の概念と分類、発育状態の評価、生理的年齢]			
2	小児の心身の発育 (p.11-19) [器官の発育、精神発達] 小児の生理的特徴 (p.20-22) [バイタルサイン、薬剤処方]			
3	顔面頭蓋の発育 (p.23-30) : [脳頭蓋と顔面頭蓋の発育変化、脳頭蓋の発育の特徴、顔面頭蓋の発育の特徴、発育の評価法] 歯の発育とその異常 (p.31-39) : [乳歯・幼若永久歯の特徴、歯の形成、歯の形成異常]			
4	歯の発育とその異常 (p.39-42) : [歯の萌出] 歯列と咬合の発育とその異常 (p.43-52) : [歯列・咬合の発育、歯列・咬合の異常]			
5	小児の歯科疾患 (p.53-65) : [小児のう蝕、小児の歯周疾患、小児に認められる口腔軟組織の異常]			
6	小児虐待 (p.66-72) : [小児虐待とは、虐待の起こる背景、歯科衛生士からのアプローチ] 小児期の特徴と歯科的問題点 (p.74-77) : [成人に対する小児のとらえ方、小児期の特徴と特徴的歯科疾患] 患者との対応法 (p.78-86) : [患者・保護者との関係、診療室における小児の態度と行動、子どもへの対応法、歯科治療時の対応法]			
7	患者との対応法 (p.86-95) : [行動変容法] 小児歯科における診療体系 (p.96-105) : [特徴、原則、診査・診断]			
8	小児歯科における診療体系 (p.105-110) : [母親教室]			
9	小児歯科における診療体系 (p.110-124) : [麻酔法、ラバーダム、隔壁、歯冠修復]			
10	小児歯科における診療体系 (p.124-137) : [小児の歯内療法]			
11	小児における診療体系 (p.137-152) : [小児の外科処置、咬合誘導、フッ化ジアンミン銀]			
12	小児における診療体系 (p.152-153) : [リコール] 障害児の歯科治療 (p.154-162) : [障害児に対する歯科的対応、障害とその特徴]			
13	障害児の歯科治療 (p.162-168) : [障害児への対応、小児の摂食・嚥下障害] う蝕予防 (p.169-185) : [ブラークコントロール、フッ化物の利用、フィッシャーシーラント]			
14	う蝕予防 (p.184-190) : [代用糖、食事指導] 小児の保健管理 (p.191-199) : [3歳まで齲蝕を経験させない、第一大臼歯をう蝕にしない] 診療室と機材の管理 (p.200-204) : [診療室の管理、器材の管理]			
15	これまでのまとめと授業の復習、テスト対策			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	80%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他	20%	授業始め、前回授業の復習。ノート提出		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
歯科衛生学シリーズ 小児歯科学	全国歯科衛生士教育協議会		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
備考				
2~14回は、授業の始めに前回の授業内容についてチェックテストを実施します。 成績に反映されますので前回授業の復習は必ず行ってください。				